

NEWS

THE KAGAWA MUSEUM

香川県立ミュージアム ニュース

2024 冬号

VOL.63



CONTENTS

特集 第71回日本伝統工芸展

展示室だより 日本伝統工芸展連携企画 香川の人間国宝

お雛様と道具たち

小林萬吾 一師に学び、歩んだ道

調査研究ノート vol.49 法然寺の仏涅槃群像

トピック まぼろしの香川県師範学校郷土館「国立公園瀬戸内海の展望」展

れきみんだより 「たくさん集める」からわかること

—香川の千歯扱ぎ・足踏脱穀機大集合—

磯井正美 蒔醬三友之圖合子

香川県では、これまで6名の重要無形文化財保持者（人間国宝）を輩出しています。そのうちのひとり、漆芸家の磯井正美（1926～2023）は、おなじく重要無形文化財保持者の磯井如真（1883～1963）を父に高松市に生まれました。

昭和60年（1985）、父と同じく、刀で彫った溝に色漆を埋めて磨く技法「蒔醬」で、重要無形文化財保持者に認定され、香川の漆芸の発展に力を尽くしました。

本作は、梅の花や竹の葉といった、縁起の良い植物が加飾されています。第71回日本伝統工芸展で展示します。

特別展

第71回日本伝統工芸展



図1 山下義人(重要無形文化財保持者)
蒔醬食籠「オーロラ」



図2 大谷早人(重要無形文化財保持者)
藍胎蒔醬飾箱「紫空」

日本伝統工芸展について

昭和25年(1950)、文化財保護法が施行され、有形文化財とともに、歴史上、芸術上、とくに価値の高い工芸技術を、国として保護し育成することになりました。そして、先人から受け継いだ優れた技術を一層錬磨し、今日の生活に即した新しいものを築き上げることを目的として、昭和29年より開催されているのが日本伝統工芸展です。以降、今回で71回を迎えます。

陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門にわたり、厳しい鑑査を経た入選作品が、私たちに伝統工芸の技と美、作家の創造力を伝えます。

香川と日本伝統工芸展

香川には、江戸時代後期に高松藩の御用をつとめた玉楮象谷から始まった香川漆芸(讃岐漆芸とも)があります。昭和29年には、香川の漆芸の技法を保存し後進の育成と技術の向上を目的に、香川県漆芸研究所が設置されました。このように伝統工芸の技と美が発展した香川では、昭和32年に第4回展(於 高松市美術館、三越高松支店)が初めて開催され、第6回展(於 高松市美術館)以降は、毎年度開催し、伝統工芸の魅力を伝える機会を設けています。



図3 日本工芸会総裁賞
原智 鐵地象嵌花器(金工)



図4 高松宮記念賞
満丸正人 木芯桐塑和紙貼
「あかばな」(人形)



図5 文部科学大臣賞
角間泰憲 神代杉造箱(木竹工)

新春を彩る特別展として、香川県立ミュージアムでは第71回日本伝統工芸展を開催します。重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品41点をはじめ、受賞作品及び四国在住作家の入選作品など、計220点をご覧ください。

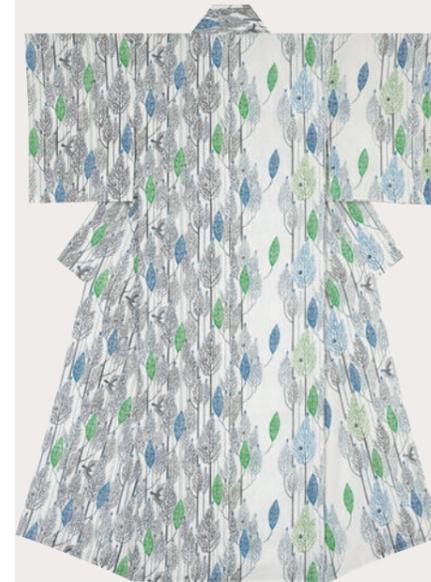


図6 東京都知事賞 遠藤あけみ
かたえぞめきもの
型絵染着物「あすなるの森」(染織)



図7 NHK会長賞 高橋朋子
ごきんさいばち およ
五金彩鉢「遊ぶ月」(陶芸)



図8 朝日新聞社賞 松崎森平
らでんついでんばこ きすいせい
螺鈿堆錦箱「汽水域」(漆芸)

第71回展の見どころ

当館では、漆芸部門の全77作品(遺作含む)が展示されることが見どころのひとつです。これは、全国11会場の中でも東京と香川のみで、またとない貴重な機会です。香川県在住の重要無形文化財「蒔醬」保持者山下義人の蒔醬食籠「オーロラ」(図1)、同じく大谷早人の藍胎蒔醬飾箱「紫空」(図2)、令和5年に逝去した磯井正美の遺作(表紙)を展示し、技と美を紹介します。このほか、香川漆芸独自の技法である蒔醬、彫漆、存清の工程見本も展示します。

受賞作品16点も一同に揃います(図3~8)。そのうち、日本工芸会総裁賞を受賞した原智の鐵地象嵌花器(図3)は、蝶の羽の鱗粉のイメージという深い黒の鉄地に無限に連続する印象紋様を象嵌で表現した金工作品です。そして、高松宮記念賞を受賞した満丸正人

の木芯桐塑和紙貼「あかばな」(図4)は、繊細な光沢を宿す打掛をまとった琉球の踊り子が、こちらに微笑む表情に魅了されます。

当館では、四国在住の入選作家による漆芸10点(全て香川在住)、陶芸4点(香川2、徳島1、愛媛1)を含む漆芸77点、陶芸38点、染織21点、金工27点、木竹工21点、人形13点、諸工芸23点を含む220点が皆様を迎えます。

また、連携企画として収蔵品による常設展示「香川の人間国宝」も同時開催します(4頁)。

ぜひあわせてお楽しみください。

(主任学芸員 日置 瑠子)

展覧会情報

特別展 | 第71回日本伝統工芸展

会 期：令和7年1月2日(木)~1月19日(日) 会期中無休

開館時間：9:00~17:00(入館は閉館の30分前まで)

会 場：特別展示室、常設展示室4・5ほか

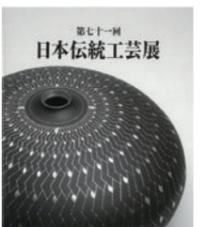
観 覧 料：一般700円、前売・団体560円

※高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

特別展観覧券で常設展がご覧いただけます。

図録情報

160頁あまりのカラー頁に全入選作品の写真が掲載されています！
会期中、1階ミュージアムショップにて販売。2,200円(税込)。



常設展示室1

日本伝統工芸展連携企画 香川の人間国宝 2025.1/2(木)~1/19(日)

本展は、第71回日本伝統工芸展の連携企画として、香川ゆかりの重要無形文化財保持者、いわゆる「人間国宝」の作品を収蔵品から紹介する展覧会です。

「人間国宝」とは、「演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いもの」(無形文化財)、そのうち重要なもののわざを高度に体現・体得しているとして認定された人のことをいいます。

香川ゆかりの人間国宝は、これまでに7人が認定されています。彫漆の音丸耕堂、蒔繪の磯井如真、磯井正美、太田儔、山下義人、大谷早人、型絵染の鎌倉芳太郎です。

伝統の「わざ」を受け継ぎながら、その時代に即した新たな作品を創り上げた作家らの作品に込められた「わざと美」をご堪能ください。

(主任専門学芸員 高木 敬子)



音丸耕堂「推黒游蟹図料紙文庫」(撮影:高橋章)

ミュージアムトーク:1/13(月・祝)
14:30~、30分程度

常設展示室1

お雛様と道具たち

2025.2/4(火)~

華やかな人形に豪華な道具類を並べる雛祭りは、江戸時代に始まったとされます。雛道具は婚礼調度である化粧道具、硯箱といった文房具、食器類などをミニチュアにしたものです。高松松平家伝来の雛人形や雛道具とともに、実物の道具類も展示します。精巧に作られた雛人形と雛道具、生活を彩った道具類をぜひご覧ください。

(専門学芸員 鹿間 里奈)



高松松平家伝来雛道具より化粧道具
右から鏡建、鉄漿道具、手拭掛・盥・湯桶・角盥 江戸~明治時代

ミュージアムトーク:2/15(土)、3/2(日)
各回13:30~、30分程度

常設展示室4・5
アート・コレクション

小林萬吾 一師に学び、歩んだ道

2025.2/4(火)~



小林萬吾
「花鈿」
昭和2年
(1927)

香川県三豊市詫間町出身の画家小林萬吾(1868~1947)は、日本洋画の父・黒田清輝(1866~1924)に学び、明治時代から終戦直後まで活躍しました。本展は、当館収蔵の作品だけでなく、個人宅に受け継がれる作品など、県内でさまざまに所蔵される萬吾作品を集めた展示です。今日もなお、地域で愛される萬吾の絵画をお楽しみください。

(主任専門学芸員 窪美 西嘉子)

ミュージアムトーク:2/9(日)、3/15(土)
各回13:30~、30分程度

調査研究ノートvol.49

法然寺の仏涅槃群像

令和6年(2024)に浄土宗開宗850年を迎えるにあわせ、4月に東京会場から開催が始まった特別展「法然と極楽浄土」。京都、九州へも巡回するこの特別展では、法然寺(高松市)から仏涅槃群像(図1)の82軀のうち26軀が出陳され話題を呼んでいます。



図1 法然寺三仏堂内観

法然寺は、法然上人が讃岐へ配流された時に滞在したという生福寺(まんのう町)を、初代高松藩主松平頼重(1622~95)が高松城からほぼ真南へおよそ8.5キロメートル離れた地に移して再興した寺院です。寛文8年(1668)に始められたとされる法然寺造営は頼重晩年の大事業になり、当館では平成19年(2007)より古文書・書画・彫刻、松平家墓所などの総合調査に取り組んできました。この度の特別展「法然と極楽浄土」の準備に際し、仏涅槃群像の再調査を経て、改めて考察する機会を得ました。

仏涅槃群像を安置する堂宇は、群像の印象が強いため「涅槃堂」とも呼ばれますが、本尊は仏涅槃像ではなく、来迎印を結ぶ阿彌陀如来像を中央に釈迦如来像と弥勒菩薩像を左右に配する三仏で、「三仏堂」が正式名です。頼重がまとめた寺の運営に関する定め「仏生山法然寺条目」の一条に「涅槃の釈尊ならびに羅漢聖衆五十二類まで、形像造立し納め置くの間、毎年涅槃会には三仏堂において執行すべし」とあり、堂内に仏涅槃像と会衆の彫像群を造立し、毎年涅槃会を行うことが頼重の当初からの構想であったことは明らかです。なぜ願主・頼重は、三仏の前に仏涅槃像を配する尊像構成としたのでしょうか。

仏涅槃像の金色の衣は盛り上げ文様で華やかに飾られています。文様は、蓮華唐草、蓮池、宝珠、瑞雲、瑞鳥、花菱、菊流水、渦潮付き波濤、青海波、紗綾形、亀甲繫ぎ、麻葉繫ぎなど多種におよびます。家紋のモチーフ「葵」の一葉をあしらうなど文様には意味があるようです。注目されるのは袈裟の正面中央2か所に配される龍(図2)。頼重は、寛文13年に隠居が許されると「龍雲軒源英」と号し、延宝3年(1675)に落飾して法号を「龍雲院」としました。その後、自ら設けた廟所本殿(現在墓石のみ)に納めた衣冠束帯姿の陶製寿像は(図3)足下に龍を待らせ、



図2 仏涅槃像の着衣文様(龍の部分)

「龍」が頼重にとって特別な存在であったことは明白です。仏涅槃像の衣に龍をあらわしたのも頼重自身の意図である可能性が考えられます。本尊中尊が来迎の阿彌陀であることを踏まえれば、人としての釈迦がその生涯を終えた後、阿彌陀浄土へ往きて生まれる、というストーリーに龍を介して自らを重ねようとしたかのようです。法然寺境内の堂宇配置が極楽浄土への往生ルートを意識したものであるのと同様、三仏と仏涅槃像の関係性も頼重の強い欣求浄土の願いによるものではないか、と考えているところです。

(主任専門学芸員 三好 賢子)



図3 陶製松平頼重像

法然寺調査に関する当館の刊行物

「法然寺調査」『ミュージアム調査研究報告』3、2011年
『高松藩主松平家墓所調査報告書』、2015年

特別展「法然と極楽浄土」

京都国立博物館:2024年10月8日(火)~12月1日(日)
九州国立博物館:2025年10月7日(火)~11月30日(日)

まぼろしの香川県師範学校郷土館 「国立公園瀬戸内海の展望」展

香川県の博物館略史

香川県では、明治32年(1899)、栗林公園内(高松市)に香川県博物館が、県の物産や産業奨励の展示普及施設として設置されました。その後同館は、明治39年に県物産陳列所、大正10年(1921)に県商品陳列所、昭和13年(1938)に県商工奨励館と改称され現在に至ります。

その間、民間では明治38年、琴平に金刀比羅宮博物館1号館(現 宝物館)が、昭和3年には2号館(現 学芸参考館)が開館し、また坂出には大正14年、鎌田共済会郷土博物館が開館し、それぞれ現在に至ります(後者は来年、開館100周年を迎えます)。そのような中、瀬戸内海国立公園指定の前年の昭和8年に開設されたのが香川県師範学校(現 香川大学)郷土館です。現在、香川大学には大学博物館が設置(2007)されていますが、郷土館の存在や展示などの状況はあまり知られていませんでした。

香川県師範学校郷土館の常設展示

香川県師範学校郷土館については、『郷土館施設概要』(香川県師範学校郷土研究部編、1933年)が刊行されており、その内容を知ることができます。当時、文部省は郷土教育運動を推進するため、郷土教育施設費を各師範学校に下附することとなり、近森幸衛新校長が郷土館設置を推進し開館しました。

郷土館の展示は常設展示として「香川県の開化史」と「香川県の自然」「香川県の経済」で構成されており、「開化史」では偉人(人物史)を中心にその遺品や肖像・遺筆文書の写真などが展示されました。また、「自然」では地質・岩石・鉱物・化石をはじめ、魚介・動物・植物・昆虫などの標本も多数展示され、「経済」では農産物である穀物や野菜、果樹、花卉などの様々な品種標本や種子、病害虫や農薬、肥料、各産物の加工品などが紹介されました。

展示は農業にとどまらず林業や畜産、養蚕にも及び、農具や農業史の展示も行われています。人文・自然横断的な総合的な展示を目ざしたことがわかります。

画期的な動的陳列室の構想

『郷土館施設概要』には上述の常設展示の前に「高松の概観」という展示室が置かれたことが記されています。高松の今昔、交通上の高松、経済上の高松、総合文化上の高松の地位、風光上の高松の5項目が設定され、歴史・地理・経済・文化・景観観光などの視点で、教員や学生の実地調査の成果が掛け図(地図・統計)や実物、模型などで展示されました。

郷土の実態に学び、教育に資する実践研究とその成果展示として位置づけられており、第1回は高松を取り上げたが、今後この陳列室は順次県内各地域を取り上げていくとし、調査研究の成果を反映させる展示替えを前提とした「動的陳列室」である

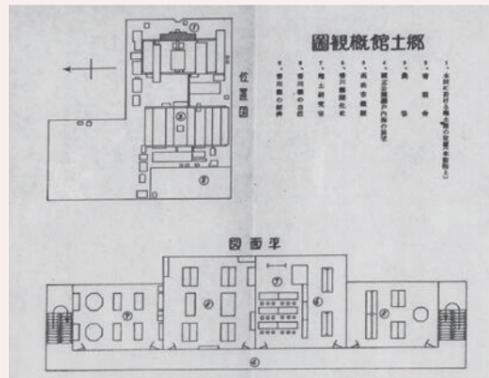
としています。また、展示室に併設して郷土研究室が設けられ、学生たちが展示で学びながら研究をすすめることができるよう参考文献なども常備されました。まさに展示内容や施設、教育コンセプト等、現今の博物館施設のさがげとみることができる施設であったことがうかがえます。

「国立公園瀬戸内海の展望」コーナーの設置

展示室の最後には「国立公園瀬戸内海の展望」を冠した展示コーナーが廊下を利用して設けられました。翌年の国立公園指定や指定予定地はすでに公になっており、展示内容は「自然の美」をテーマに教員が描いた国立公園風景地の絵画が中心でしたが、香川県の師範学校として「瀬戸内海国立公園」がその後の児童生徒たちへの教授項目として、また地域社会にとって重要な意味をもつことをふまえてのコーナー設置と考えられます。

奇しくも瀬戸内海国立公園指定90周年の今年、香川大学博物館では特別展「景観からみる『高松 海城町の物語』」(~12月21日)が開催されています。昔も今も、香川の歴史や文化を理解するうえで「瀬戸内海からの視点」が普遍的なテーマであることがわかります。

(瀬戸内海歴史民俗資料館 専門職員 田井 静明)



「郷土館概観図」『郷土館施設概要』(国立国会図書館デジタルコレクションより)



現在の香川大学博物館



「たくさん集める」からわかること —香川の千歯扱ぎ・足踏脱穀機大集合—

千歯扱ぎと足踏脱穀機は、稲や麦などの穀物の穂からモミを取り外す脱穀作業に使われた道具です。これらは旧来より作業効率を大幅に向上させた画期的な発明品として広く普及しました。

今回、展覧会の開催に向けて香川県内14ヶ所の資料館等で千歯扱ぎ219点・足踏み脱穀機73点を調査したところ、技術革新を目指して改良が重ねられたことや、県内でも複数の地域で製作されていたことなどがわかってきました。

千歯扱ぎ —改良の歴史と生産地・製作者

千歯扱ぎを見ていくと、歯の材質(鉄・竹)や断面形(長方形・台形・三角形など)、間隔(約1.5mm・3mm)などにさまざまな違いがあることがわかります。これらは、対象作物(稲・麦等)や時代、地域などの違いによるものと考えられ、先行研究では瀬戸内地域において「丸棒鉄千歯扱ぎ」と呼ばれる形が奏用として広く用いられたことなどが指摘されています。

また、千歯扱ぎの台木や歯には、生産地・製作者・用途など様々な情報が記されており、今回の調査では、江戸時代からの主要産地として知られる倉吉の他、若狭早瀬・堺・紀州粉河・神戸・佐渡羽茂本郷の製品が見つかりました。

あわせて、県内各地の製作者も新たに確認され、東かがわ市、さぬき市、まんのう町、善通寺市の製作者が生産していたことがわかりました。このうち、さぬき市の寺岡鶴吉は大正~昭和時代前期にかけて、県内でも多く見られる歯の断面が長方形などの千歯扱ぎと、丸棒鉄千歯扱ぎの2種類を製作していたことなどがわかりました。

足踏脱穀機 —見えてきた生産・流通の様子

足踏脱穀機にも、製品名・生産メーカー・メーカー所在地など様々な情報が記されています。調査した足踏脱穀機73点の生産メーカー所在地を確認すると、東は関東・東海から、西は山陽・山陰まで広範囲に及ぶことがわかりました。

また、県内の生産メーカー4社の製品も新たに確認され、このうち高松市松島町に所在した四国農具製造合資社のシーノー式は、木製部品を多用し着色がないことや、歯車を鉄板で覆う安全対策がないことなどから、足踏脱穀機が登場して間もない大正時代に生産されたと見られます。

ただ、県内で使われていた足踏脱穀機の情報分析はまだほとんど行われておらず、今後も県内における生産や流通の状況に注目していく必要があります。

「たくさん集める」ということ

民俗学者の宮本常一はかつて、海外の研究者が日本の博物館・資料館における資料の収集姿勢を評して、「日本の博物館はサンプルしか集めない。それでは本当のことはわからない。



千歯扱ぎ(左)・足踏脱穀機(右)

このように(「たくさん」の意※筆者註)集めるとその工夫の程がよくわかるばかりでなく、地域の差・年代の差・技術の伝播などもかなり詳しくわかって来る(※)と述べたことを紹介し、たくさん集めること、研究することの必要性を指摘しています。

限られた収蔵スペースや調査研究体制のなか、日本人と道具の関係や地域における道具の生産・流通・利用方法などを明らかにし、後世の検証に耐えるとともに、活用できる実物資料を収集・保存していくことは容易ではありません。今回、県内の市町資料館などにもご協力いただき「たくさん集めることからわかること」を2つの農具を例に検証しました。今後もこうした連携と情報共有を図りながら、地域の民俗資料の収集・保存に取り組んでいきたいと考えています。

(瀬戸内海歴史民俗資料館 主任文化財専門員 長井 博志
専門職員 田井 静明)

※宮本常一「民具分類整理の意味」『日本民具学会通信』1977年

展覧会情報

瀬戸内ギャラリー第14回企画展

「たくさん集める」から わかること

—香川の千歯扱ぎ・足踏脱穀機大集合—

10月5日(土)~12月1日(日)

調査した292点の県内資料の中から、千歯扱ぎ60点、足踏脱穀機30点を抽出・展示し、「たくさん集める」ことから見えてきた成果を紹介します。

INFORMATION [2025.1 - 2025.3]

SCHEDULE

	歴史展示室	常設展示室 1	常設展示室 2	常設展示室 3	常設展示室 4・5	特別展示室
1月		1/2 香川の 人間国宝 1/19				1/2 第71回 日本伝統工芸展 1/19
臨時休館 1/20～2/3						
2月	かがわ今昔 ～香川の 歴史と文化～	2/4 お雛様と 道具たち	生誕120年 イサム・ ノグチIV 3/2	弘法大師 空海の 生涯と業績		2/4 小林萬吾
臨時休館 3/3～3/10						
3月			3/11 生誕120年 イサム・ ノグチV			

特別展「第71回日本伝統工芸展」関連イベント

講演会 無料・要事前申込

伝統工芸とは何か—その創造性と多様性

「伝統工芸」は、日本に古くからあるようで、実は比較的新しい言葉であり、概念です。講演では、「伝統工芸」の概念の成り立ちや、伝統工芸作品の創造性や多様性などについてお話しいたします。

日 時：令和7年1月11日(土)13:30～15:00
講 師：外館和子氏(工芸評論家、工芸史家、多摩美術大学教授)
会 場：地下1階講堂
定 員：230名(先着順)
申込期間：12月3日(火)～、定員になり次第終了

陳列品解説 要観覧券

日 時 等：令和7年1月4日(土) 佐々木博氏(漆芸)
1月5日(日) 栗原慶氏(陶芸)
1月13日(月・祝) 北岡道代氏(漆芸)
1月18日(土) 伊藤信夫氏(陶芸)
1月19日(日) 藪内江美氏(漆芸)
各日 13:30～(30分程度)

会 場：特別展示室、常設展示室4・5ほか

プレミアムナイトツアー 有料・要事前申込

閉館後に行う人数限定のプレミアムなツアー。カフェで香川の郷土料理「あん餅雑煮」を味わっていただいた後、特別展などを学芸員がご案内します。贅沢な新春の夜を過ごしませんか？

日 時：令和7年1月18日(土)18:00～20:00(受付は17:30～)
会 場：1階カフェポット・ミュゼ、特別展示室、常設展示室1・4・5
参 加 料：2,500円(税込、カフェ代込み)
定 員：20名(先着順)
申込期間：12月18日(水)～、定員になり次第終了
申込方法：旅行情報サイト「じゃらんnet」より
詳細は当館ホームページなどに掲載します

講演会・講座の申込方法

電話、「香川県電子申請・届出システム」(*)を利用したインターネットから。

※「香川県電子申請・届出システム」を利用する場合

香川県立ミュージアムホームページ右下の「関連リンク」から「香川県電子申請・届出システムのページへ」をクリックしてください。

2月のイベント

学芸講座 無料・要事前申込

ミュージアム・スーパープレゼンテーション2025

美術、歴史、民俗等について、調査研究はじめ日々様々な活動を行っている当館。今年度もこれらの活動を通じて考えたことを担当者がリアルにプレゼンします。

日 時：令和7年3月22日(土)13:00～15:30
会 場：地下1階研修室
定 員：72名(先着順)
講 師：当館職員、瀬戸内海歴史民俗資料館職員
申込期間：令和7年2月22日(土)～、定員になり次第終了

瀬戸内海歴史民俗資料館

瀬戸内ギャラリー 第15回企画展

<奴行列>大國香川—獅子舞・太鼓台に負けない祭礼風流—

香川の祭礼を特徴づけると言えるのが奴行列や奴振りです。江戸時代の大名行列が祭礼行列にとり入れられたものとされ、全国で600件ほど報告されているうちの約100件が香川県に伝承されています。その実態を写真などから紹介します。

会 期：令和7年1月11日(土)～2月24日(月・振休)

瀬戸内海歴史民俗資料館のイベント 無料・要事前申込

地域の伝統文化・技術等の調査記録・発信事業

トークイベント「地域の祭り行事の伝承を考える」

日 時：令和7年2月8日(土)13:30～16:00
講 師：池内直生氏(西上円座獅子組・高松市)
福井大和氏(男木島囃子屋台・高松市)
富山茂樹氏(横内八幡宮太鼓保存会・東かがわ市)
田井静明(瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員)
会 場：香川県立ミュージアム 1階図書コーナー
定 員：40名(先着順)
申込期間：12月17日(火)～、定員になり次第終了

れきみん講座「香川の奴風流」

日 時：令和7年2月15日(土)10:00～11:30
講 師：田井静明(瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員)
会 場：瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室
定 員：25名(先着順)
申込期間：12月17日(火)～定員になり次第終了

■イベントの申込方法

電話、「香川県電子申請・届出システム」(*)を利用したインターネットから。
申込の際に、氏名、電話番号、イベント名をお伝えください。
申込先:瀬戸内海歴史民俗資料館 TEL.087-881-4707



カフェポット ミュゼ 「うるしの器でほっと一息」

日本伝統工芸展の会期中、郷土料理「あん餅雑煮」を漆の器で楽しめます。
協力/特定非営利活動法人 アーキペラゴ
営業時間:9:00～17:00(オーダーストップ16:30)



ミュージアムショップ

1階ミュージアムショップでは、当館オリジナルグッズも販売しております。
営業時間:9:00～17:00

香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002(代表) FAX.087-822-0043
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/index.html



瀬戸内海歴史民俗資料館

〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/index.html



香川県文化会館

〒760-0017 高松市番町1丁目10番39号
TEL.087-831-1806 FAX.087-831-1807
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/bunkakaikan/kfvn.html

